

将校養成のため現在の千葉県船橋市にあった陸軍騎兵学校に入った。
7月、教官から突然会議室へ行くように告げられた。部屋では机の向う側に軍服姿の面接官が数人いて「親兄弟と縁を切つてほしい」と聞かれた。



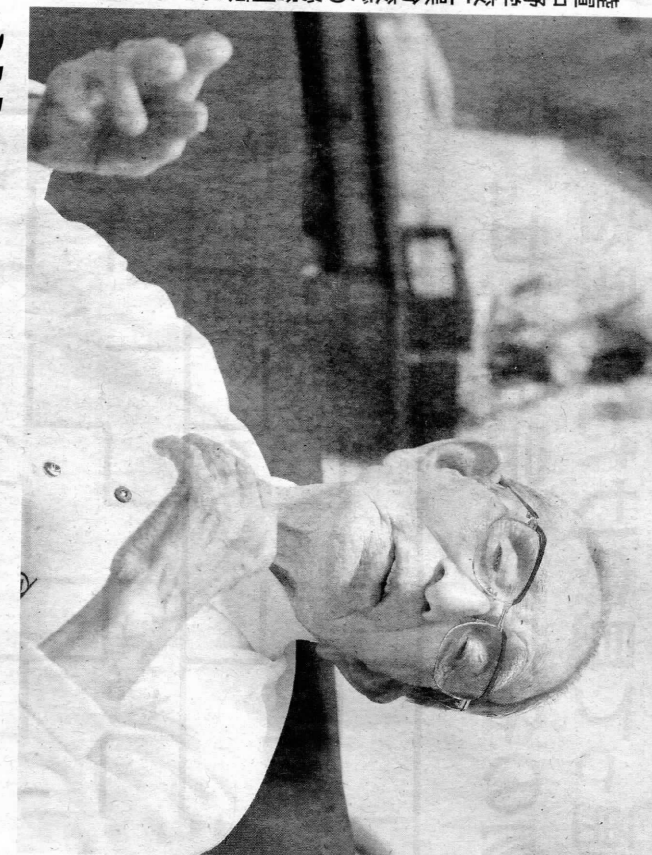
台湾でゲリラ部隊を組織していた井登慧さん(後列右から4人目)現地住民ら=1945年撮影(本人提供)

陸軍中野学校二俣分校 102歳元兵士



行く」「二俣分校の名前は絶対」に秘密にしておけ」と訓示を受けた。教官は軍人なのに丸知りではなく、「異様な感じがあった」。

間接との面接に、井登さんは「合格」の月一日「二俣分校」に1年生として入った。同期は約30人。看板は「陸軍中野学校」で「中野」の文字はなかった。入校の際、「二俣分校」の訓練を受ける。遊撃戦(ゲリラ戦)の戦士として戦場に



陸軍中野学校二俣分校での秘密訓練について話す井登慧さん=6月8日、兵庫県明石市

潜入や破壊、本土決戦へ訓練

た。橋の爆破演習では、橋を渡った後に教官から「橋の長さ、川の深さは「爆破に必要な火薬量は」と次々に聞かれた。観察眼や分析力を磨く候「察」の一環だった。飛行場に潜入した後には飛行機を爆破する演習や、バンの女性から情報収集する訓練もあった。

11月末に卒業したが、二俣分校にいた3カ月間は軍歴に記されなかった。卒業後は大阪の中部軍司令部を経て少尉となり、45年1月に台湾へ。台湾では現地住民らでつくるゲリラ部隊の中隊長になったが、米軍は台湾に上陸せず、終戦を迎えた。「命があり、ほっとした」46年3月には台湾北部から1週間かけて船で帰国し、教壇に戻った。

秘密訓練から80年余り「私も軍隊の暗黒、駒の一つだった」と振り返る井登さん。「日本はなかなか殺し合いをしてしまった。戦争はもう絶対にやめてはならない。102歳の雄たけびです」



小野田寛郎さん(右)から2人目)と一緒に写真に納まる井登慧さん(左)(井登さん提供)



騎兵の訓練を積んでいた頃の井登慧さん(本人提供)